

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立陵北中学校

1 本年度の重点目標

- ・「自ら学ぶ姿勢」を育て、「自立した学習」へ確実につなげる取組の推進
- ・生徒一人一人を大切に教育の推進
- ・健やかな体の育成と食育の推進
- ・地域・保護者との「絆」を紡ぐ連携の推進

2 本年度の経営方針

○学校自身が「学習する組織」であること
 目的に向けて効果的に行動するために、教職員集団としての意識と能力を継続的に高め、伸ばし続ける組織を目指す。

3 自己評価結果

A：十分である B：概ね十分である C：不十分である D：改善を要する

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校教育目標・教育課程	学校教育目標や基本方針及び取組などを保護者にわかりやすく伝えている。	A	新入生説明会や学校説明会では、今後もパワーポイントなどを使ったわかりやすい説明を心がける。また、学校公開日や学年・学級PTAなどを活用し、保護者との関わり合いを深めながら積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを進めていく。	A	A
	教育目標や基本方針が教職員に理解され、教育活動の指標として活かされている。	A	生徒の実態や保護者の願い、校区の地域性を全職員で共有し、共通理解のもとに教育活動を進めていく。今後も全職員で学校経営方針を受け止め、各部・学年・教科などで効果的な教育活動を進めていく。	A	A
	諸会議、業務などが効率的に行われ、教職員が協力し、学校経営がなされている。	A	校務支援システムを活用し、諸会議や業務に関わる時間の短縮に努めることができた。さらに、各種研修や会議を通して教師間の共通理解を深め、より充実した学校経営につなげていく。	B	B
	学習指導要領に基づき、教育課程の編成・実施は各領域の調和がとれている。	A	新学習指導要領の完全実施に向けた教育課程を編成している。今後も、主体的・対話的で深い学びにつなげていくために、継続して授業改善に取り組んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		諸会議や業務内容等の効率化を図り、一層効果的な学校運営を目指すとともに魅力あふれる学校づくりのために尽力してほしい。			
学習指導	授業時数は適切に確保されている。	A	終業式や始業式に授業を行ったり、学校行事の見直しを図ったりすることで、適切に授業時数を確保できた。次年度も授業時数の確保に努めつつ、週1回の5時間授業を取り入れながら、学校生活に適度なゆとりをもたせていきたい。	A	A
	生徒が意欲的に参加できる授業が行われている。	A	各教科でホワイトボードを活用したグループワークや学び合いの時間を設定することで、生徒が意欲的に取り組む授業づくりを進めることができた。今後も、授業を通して生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるような取組を進めていきたい。	A	A
	生徒にとって分かりやすい授業が行われている。	B	各教科で工夫した指導に取り組んでいるが、さらに生徒が「わかる、楽しい」授業となるように、学習課題や学習活動のあり方について校内研修を深めていきたい。	B	B
	総合的な学習の時間の内容は充実している。	B	総合的な学習の時間や特別活動、学校行事との関連を整理し、新たな教育課程を編成していくための校内研修会を実施した。次年度に向けて、探究的な学習の推進のために、総合的な学習の時間の指導計画を刷新していく。	B	B
	評価基準や評価方法などは、適切である。	A	評価基準や評価方法は、各教科会を中心に毎年検証し、生徒・保護者へ周知している。今後は、新学習指導要領の新たな評価観に向けて、校内での研修を進めていきたい。	A	A
	家庭学習の習慣が身に付くよう指導している。	B	今年度も、札幌市共通の「まほうのかいわ」について学校だよりで周知し、家庭学習に関する啓発活動を行うことはできた。しかし、「学習などについてのアンケート」では、「普段から、計画を立てて勉強している」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合がどの学年においても低い実態がある。今後も、家庭学習に関する効果的な指導について検討を重ねていきたい。	B	B
学校関係者評価委員による意見		各教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動において、新学習指導要領の完全実施と課題探究的な学習の実現に向けて適切に教育課程を編成し、指導の改善につながる取組について具体的に検討した方がよい。			

生徒指導	学校は、明るく落ち着いた雰囲気になっている。	A	普段から生徒が学校で意欲的に活動し、教師が生徒の活動を支えていることで互いの信頼関係が築かれ、落ち着いた雰囲気が醸成できていると思われる。しかし、生徒・保護者と教師側の意識との間に差があるので、今後も生徒と教師、保護者の信頼関係を深め、生徒にとって安心できる学校づくりを進めていきたい。	A	A
	生徒は、きまりやマナーを守るなど基本的な生活習慣が身につけている。	A	多くの生徒がきまりやマナーを守って生活しており、事故事例も少ない。今後も折に触れて、安全・安心な学校生活の実現のために必要な指導を続けていきたい。	A	A
	生徒に、命の尊さを考え、思いやりの心を持つような指導がなされている。	A	道徳の授業を中心としつつ、学校の全教育活動を通して、命の尊さや思いやりの心を育てる指導を続けている。特に、「いじめ防止標語」を作成し、優秀作品を各階の廊下に掲示することで、いじめ防止に対する生徒の意識高揚につなげることができた。	A	A
	不登校生徒など、支援が必要な生徒への対応が適切になされている。	A	各学年で不登校生徒に対する指導や支援が急務となっている。支援が必要な生徒を相談支援パートナーや外部機関につなげた事例もあったが、継続的な支援のあり方について改めて検証していく必要がある。	A	A
	生徒を理解しようと努め、個に応じた指導がなされている。	A	職員会議では、特別な支援が必要な生徒について教職員内の共通理解を図り、その対応を確認した。年6回の生活調査や教育相談期間では、生徒の困り感の発見に努め、問題拡大の予防に努めた。今後も、保護者との連携を密にして、情報の共有と学校での指導を慎重に進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、教職員全員で生徒の様子をしっかりと把握し、家庭とも連携しながら、生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりのために力を注いでほしい。			
進路指導	資料や情報の提供が適切に行われ進路選択に活かされている。	B	生徒には学活で進路に関する情報を伝えるとともに、高校説明会への参加を促した。また、1、2年生保護者向けにも、学年PTAや進路説明会で情報提供を続けている。3年生保護者向けには、進路便りによる情報提供と進学の手続きに関する進路説明会を行った。次年度も効果的な進路指導を継続していきたい。	B	B
	3年間見通しを持った進路指導計画があり、主体的に進路を選択・決定できる能力や勤労観、職業観を身に付けるように指導がなされている。	A	職場体験や高校訪問、自己分析や人間関係の形成など、高校進学に向けた指導だけではなく、様々な場面で進路指導を取り入れている。今後に向けて、3年間の系統性を考慮した学習活動となるよう、進路指導主事を中心とした進路指導計画の見直しに取り組んでいきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		保護者への情報提供とともに、生徒への進路指導をより具体的に進めていく必要がある。			
保護者や地域との連携	学校と家庭の情報共有が十分で、連携が図られている。	A	各学期の授業参観や学年PTAでの情報発信、1、2学期末の教育懇談会や学級PTAでの情報共有を密に行っている。また、体育大会や学校祭、合唱コンクールなどの行事を学校公開日とし、多くの保護者に参観していただいている。今後も、学校からの発信だけではなく、保護者の声も真摯に受け止めながら十分に連携を図っていく。	A	A
	地域や関係機関との連携を図りながら教育活動が行われている。	A	学校だよりを回覧板で配布したり、二十四軒交通安全総決起集会やキッズカーニバルなどに本校生徒が参加したりするなど、地域との交流を進めることができた。また、身体障害者福祉センターでの合唱部の発表活動も行った。今後も、地域との連携やつながりを大切にした活動の推進に努めていく。	A	A
	地域や保護者の声に素早く誠実に対応している。	A	学校評価アンケートでいただいた意見・要望に対しては、その後の教育懇談会で詳細を伺い、回答することで理解を得ることができた。また、保護者からの声を受けて、教育活動の見直しにつなげていくこともできた。今後も、地域や保護者の声に誠意をもって対応することで、信頼される学校づくりを進めていきたい。	A	A
	近隣小学校や中学校、高等学校との連携が図られている。	A	西高生の海外交流のプレゼンテーションを開催するなど、8月の授業体験が定着し、小学生に陵北中学校や中学校生活の様子を知ってもらう良い機会となっている。次年度以降は、小中一貫教育推進事業を更に進めることで、義務教育9年間を見通した教育活動の展開につなげていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、学校と家庭、地域の連携を大切にし、開かれた学校づくりのために尽力してほしい。			